超高齢社会に備える

わが国ではまもなく，いわゆる「団塊の世代」が高齢者(65 歳以上)の仲間入りをし，2025 年には高齢者人口が約 3,500 万人に達すると推計されています．高齢化の進展が速く，かつ，高齢化率が非常に高いという特徴に加えて，今後は喜寿や米寿などを超える高齢者の急増も予測されています．

まさに「超高齢社会」の到来ですが，2010 年の「敬老の日」は，過去に感じたことのない異様な雰囲気が全国を漂いました．同年 8 月以降，百歳以上高齢者の所在不明が全国各地で発覚し，社会問題となったのです．長寿世界一の看板の影で，コミュニティの崩壊や関係性の希薄化などが進み，高齢者の社会的孤立などが潜行していたことを物語る事件でした．長生きするだけでなく，どのようにして「良く老いるか(死に至るか)」を問われる時代を迎えたようにも思います．

このような中，わが国では超高齢社会を視野に入れて，高齢者医療制度改革や介護予防を含む介護保険事業のあり方，および高齢者の就業支援策などが検討されています．また，認知症高齢者の増加に伴い成年後見制度への関心が高まりつつあるほか，終末期医療や尊厳死などに関する議論も活発になってきました．

そこで本特集では，迫り来る超高齢社会の実像をとらえるとともに，超高齢社会の備えとして重要な政策や課題に焦点を当てて，関連分野の研究や活動の最前線でご活躍の方々にご執筆をお願いしました．

イラストレーション／丹沢裕子

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2011